



おらしよの翻訳（重要文化財）

長崎 後藤登明活版所

慶長5年(1600)刊1冊 縦21cm 横13.5cm

秀吉の禁教令以降、過酷な弾圧を受けてきたキリスト教徒（きりしたん）は、ひそかに「おらしよ」などを口伝し、信仰を守り続けてきた。隠れきりしたんと呼ばれるその末裔が、今も長崎県の生月島などに住み、独自の信仰形式を継承している。

「おらしよ」は、ラテン語のオラシオに由来し、祈り・祈禱文のことを指す。「おらしよの翻訳」は、慶長五年（一六〇〇）三月に、長崎の町年寄で海外貿易にも従事した熱心な信徒、後藤登明が金属活字で出版した、いわゆる「きりしたん版」で、天下一本の

稀覯書である。信仰生活に必要な祈禱文や教義の要点などを集録したもので、意味が通じなくても日本の信徒が有難い呪文を読めるように、ラテン文を平仮名書きにしたり、和文だけで記すなどしている。秀吉の禁教令から三年後の出版で、時節柄一般の信徒に広く行き渡ることは無かったであろう。本書の存在が初めて公表されたのは昭和十六年（一九四二）、実に発刊から三百四十一年目の出来事で、その出処も含め愛書家の注目を浴びた。永い眠りから覚めた本書の旅路は不明であるが、西国方



書名や出版年が記された扉

面（島原城主旧蔵か）で発見されたときは、全体に墨で「×」印が入り判読できなかつたという。名工の手によって出版時の姿に復元されたが、今なお痛々しい傷跡を残す。隠れきりしたんによって、ほぼ忠実に暗唱され連続と受け継がれたこと、そして信仰の拠り所となった書物がこの世に出現したことは、共に奇跡と言わざるを得ない。

（天理図書館 田淵正雄）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>

◆平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）

6月30日は閉館。

（本欄にて紹介した名品の閲覧については係へお尋ねください）

※前号解説内の漢字ルビに誤りがありました。お詫びして以下に訂正いたします。

（誤）古河藩（ふるかわはん）（正）古河藩（こがはん）

※「陽気」2011年6月号より